

住まいと火災

火災による被害を防ぐための基礎知識

(2) 火災原因の推移とその理由 (たばこ・放火・こんろ)

東京理科大学総合研究院教授 小林 恭一 博士(工学)

火災原因が変化した理由

前回、主な火災原因ごとの火災件数が時代とともに変化していることをお示しましたが、今回は、それぞれの理由を考えてみたいと思います。

たばこ火災

たばこ火災が最近減っているのは、たばこの消費量が減ったからではないか、と考えたくなりますが、そうでもありません。

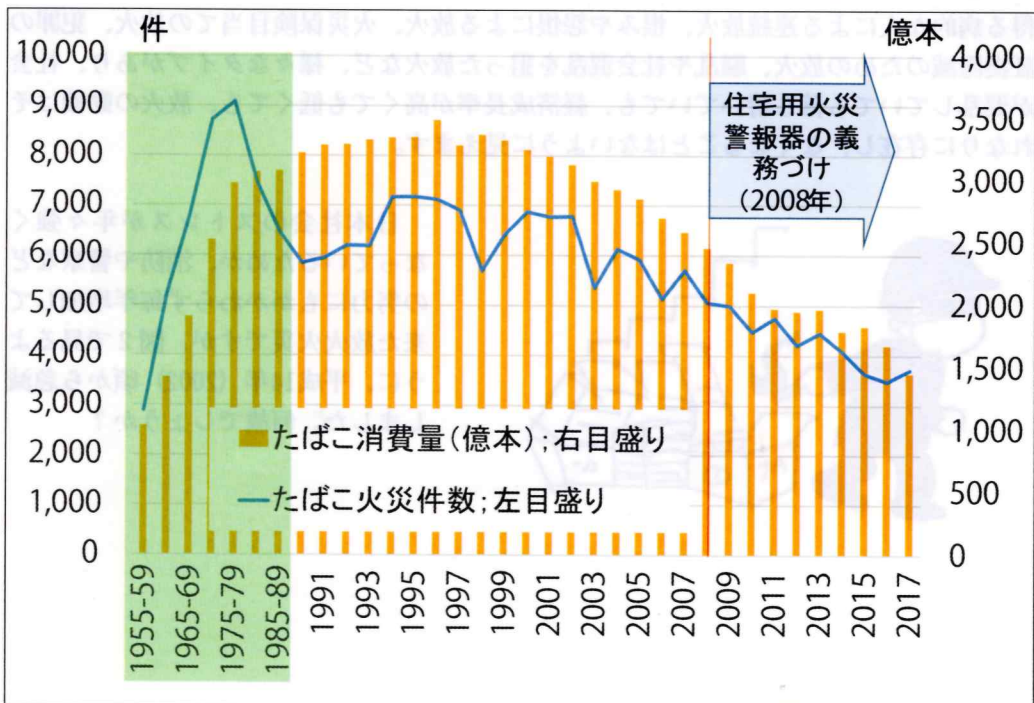


図1 たばこ火災件数とたばこ消費量の推移 (1955-2017)
消防白書及び (一社) 日本たばこ協会「紙巻きたばこ統計データ」より作成

図1は、火災件数の推移と紙巻きたばこの販売本数の推移を合わせて示したものです。たばこ消費量は昭和50年(1975)前後まで急速に増え、それに併行してたばこ火災

も急増していました。その後たばこ消費量の伸びは落ち着きましたが、依然として増加傾向にありました。ところが、たばこ火災件数はこの時期を境に急減しました。たばこの消費量が減るのは平成7年(1995)頃からです。この時期はたばこ火災が再び減り始めた時期と重なりますので、たばこ火災の第二期減少期の理由の一つにはなっていると考えられます。

昭和55年(1980)前後にたばこ火災が減った理由はよくわかりません。ただ、この時代は、昭和40年代末期(1978~9年頃)のオイルショックを契機にそれまで右肩上がり高度経済成長を続けて来た日本の国が、成熟社会に軌道変更を余儀なくされた時期に当たります。社会経済の多くの指標がこの時期を境に急変しており、火災件数など火災関係の多くの指標もこの時期に急変しています。私は、勢いに任せて成長して来た国が少し落ち着いた国に変化したため、「ポイ捨てをしない」など社会的なマナーと直結するたばこ火災にもその影響が現れたのではないかと考えています。



放火火災

放火火災は多くの国で火災原因の1、2位を争っており、日本も例外ではありません。放火には、憂さ晴らしのための八つ当たりの放火、放火することによって快感を得る病的な人による連続放火、恨みや怨恨による放火、火災保険目当ての放火、犯罪の証拠隠滅のための放火、騒乱や社会混乱を狙った放火など、様々なタイプがあり、社会が混乱していても落ち着いていても、経済成長率が高くて低くても、放火の動機はそれなりに存在し、なくなることはないように見えます。



日本社会のストレスが年々強くなっているためか、消防や警察などの努力にもかかわらず毎年増加して来た放火火災ですが、図2で見ると、平成14年(2002)頃から急減しました。何故でしょうか？

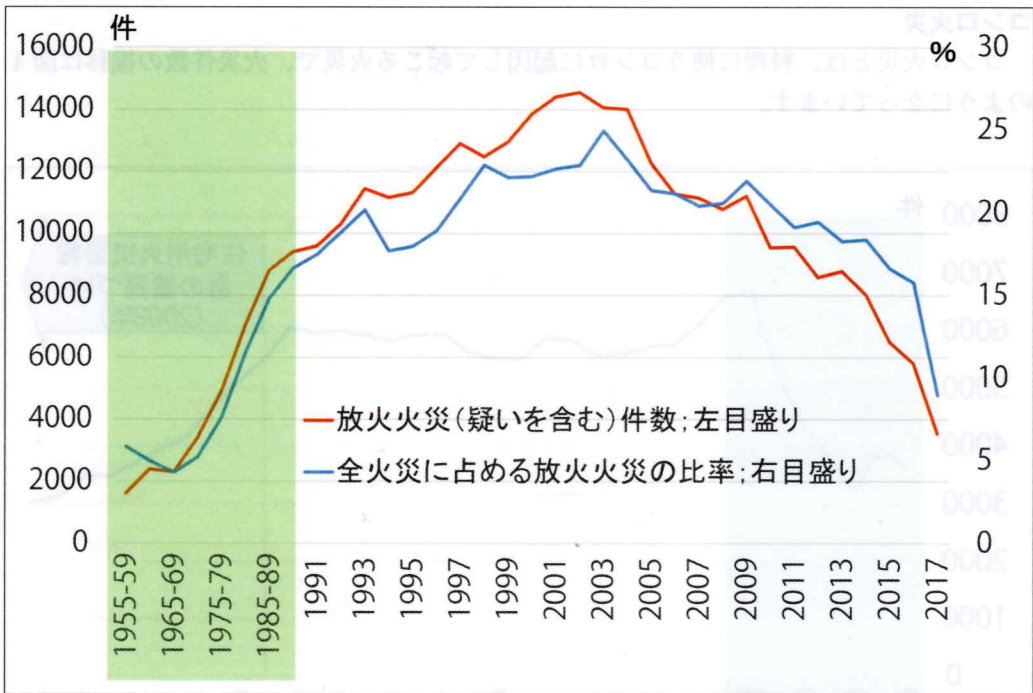


図2 放火火災と比率の推移 (1955-2017) 消防白書より作成

図3は、窃盗件数の推移(犯罪白書)です。放火と同じ時期に急減していますね。同じ時期に検挙率も上がり始めています。これについて警察庁では「防犯カメラなど官民あげた取り組みが奏功した」と分析しています。防犯カメラは2002年に新宿歌舞伎町に50台設置して以降急増するようになり、設置台数は全国で500万台に迫る(2018年11月日経ビジネス)などと言われています。

「防犯カメラが見張っているかも知れない」という警戒心が抑止力になって放火が減った、というのは有力な仮説になりそうです。

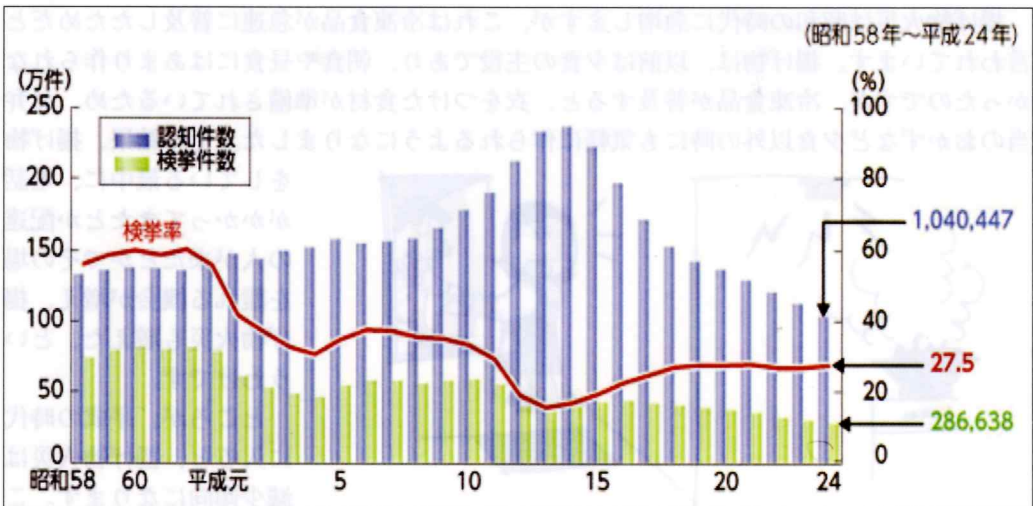


図3 窃盗 認知件数・検挙件数の推移 (平成25年版犯罪白書より)

コンロ火災

コンロ火災とは、料理に使うコンロに起因して起こる火災で、火災件数の推移は図4のようになっています。

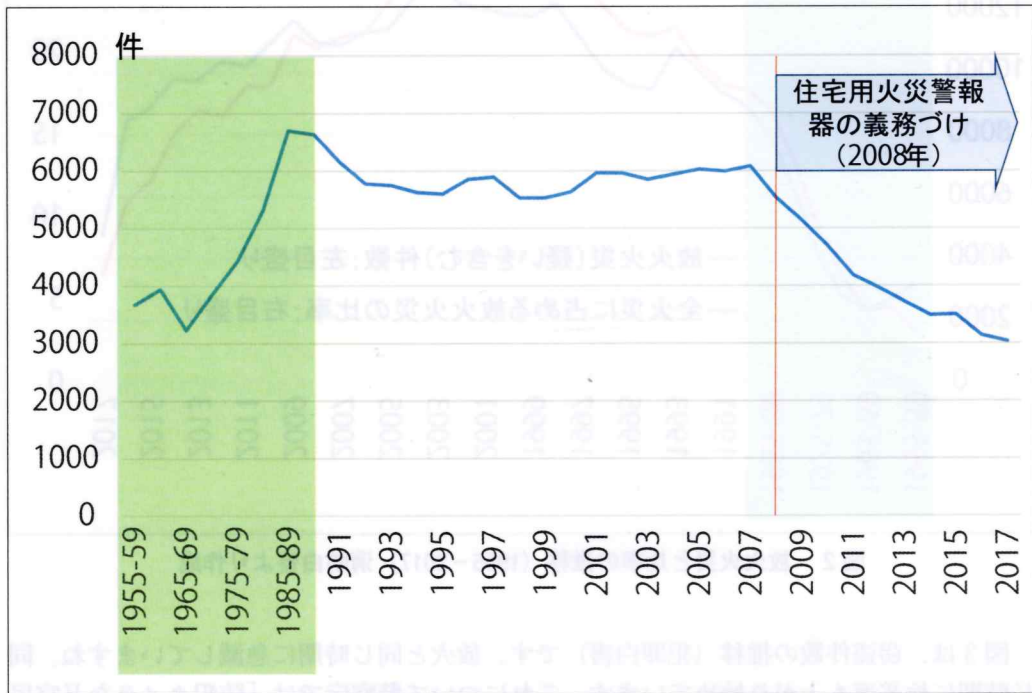
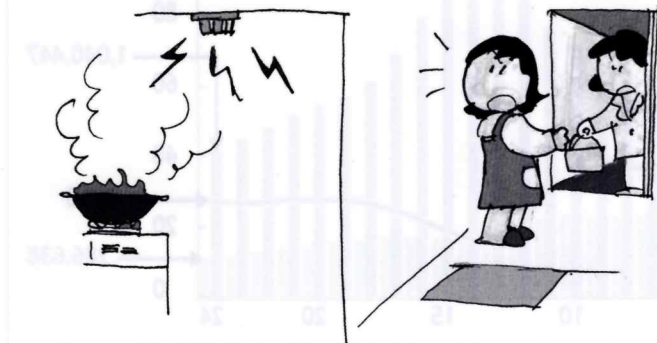


図4 コンロ火災の推移 (1955-2017) 消防白書より作成

コンロ火災の多数を占めるのは天ぷら油火災 (揚げ物火災) です。揚げ物をしている最中に何らかの理由でその場を離れ、その間に油が過熱して発火する火災です。水をかけると爆発的に沸騰して被害が大きくなりますし、粉末消火器では消しにくいので、家庭で起きる火災の中では、最も厄介なものの一つです。

揚げ物火災は昭和の時代に急増しますが、これは冷凍食品が急速に普及したためだと言われています。揚げ物は、以前は夕食の主役であり、朝食や昼食にはあまり作られなかったのですが、冷凍食品が普及すると、衣をつけた食材が準備されているため、お弁当のおかずなど夕食以外の時にも気軽に作られるようになりました。その結果、揚げ物



をしている最中に、電話がかかってきたとか配達の人 came とかでその場を離れる機会が増え、揚げ物火災も増えた、というわけです。

ところが、平成の時代に入ると、揚げ物火災は減少傾向になります。これは、社会が変化して夕

食にそろって食卓を囲む家庭が減り揚げ物の機会も減ったためではないか、子供の数が減る一方給食の体制が整いお弁当に入れるために揚げ物をするのが減ったためではないか、いや、揚げ物火災防止装置付きのコンロが普及したためではないか、など様々な仮説がありますが、どれも一理ありそうですね。

平成18年（2006）以降、コンロ火災がさらに急減していますが、その理由はハッキリしています。平成18年（2006）以降、全住戸に住宅用火災警報器の設置が義務づけられ、既存の古い住宅にも順次住宅用火災警報器が設置されるようになったためです。

住宅用火災警報器が設置されると、揚げ物をしている途中で調理台を離れたため油が過熱した、などという段階で警報が鳴りますので、あわてて調理台に戻り事なきを得た、などということが多くなります。その段階で措置すれば火災ではありませんから、消防への通報も必要ありません。その結果、住宅用火災警報器が普及すると揚げ物火災は減る、ということが起こるのです。同じ時期にストーブ火災やたばこ火災の減少傾向が強まっていますが、これも同様の理由だと考えられます。

